

着物と私(6)

「和製ビューティー★ドレス」

須田 ちひろ



最近では、ここ、古都京都においてさえも、着物を着る機会がとても少なく限られていると思います。実は、私も着物について疎い人間の一人だったのですが……。私と着物の接点といえば、浴衣を夏のお祭りや花火大会に着ていくこと、もしくは、七五三、十三参り、成人式、そして卒業式などの人生の節目においてでしょうか。このような場面に着ていくためか、私にとっては「着物」＝「晴れ着」であり、また、普段の自分とはまったくの別人に生まれ変わらせてくれる「変身ドレス」なのです！

以前、「ハンサム★スーツ」という映画がありました。その映画には、着るとどんな人でもハンサムにしてくれるというスーツが出てくるのですが、まさに着物はこの「ハンサム★スーツ」ならぬ「和製ビューティー★ドレス」なのだと思えます。

なぜなら、着物を着ることによって女性はより女性らしくなり、いつもとは違う大人っぽさと凛とした雰囲気を出すことができるからです。また、見た目だけでなく精神面をも美しくしてくれます。いつもとは違う自分に心ははずみ、その日一日を楽しく過ごすことができるようにしてくれるのです。まさに「ハンサム★スーツ」に出てくるスーツと同じような役割を果たしているといえます。このように考えると、晴れ着として着物以上にふさわしいものはないのではないのでしょうか。

もちろん、着物を着ることは人生の節目の行事



においてだけではありません。花火大会やお祭りにだって着て行っていいのです。何もすることがない日に京都の趣のある街を散策する。そんな時に着物を着てみるのも風情があっていいではありませんか。洋服よりもずっと素敵な時間を過ごせそうではありませんか。

特別な日には新しい自分を感じさせてくれて、何気ない日々を特別な一日にしてくれる。そんな着物に一人でも多くの人が興味を持ってくれば幸いです。

すだ ちひろ (2010年度日本語学科卒業生)